

「なごや歴まちびとの会」丸久旅館 見学会報告書

日 時 平成 26 年 8 月 16 日 (土) 10 : 30 ~ 12 : 00

場 所 常滑市鯉江本町 6-85

参加者 13 名

丸久旅館は、常滑駅前に立つ木造 3 階建ての旅館です。今回、解体 4 日前というタイミングで建物内を見せていただく機会を得て、見学に参加しました。

この建物は細長い敷地に 3 つの棟が直線状に連なる形状で、最も古い棟は中央部、大正時代に建てられた 2 階建て、2 階が客室になっています。その後昭和 10 年に東側・玄関のある数寄屋風の 3 階建てが増築されました (写真①、②)。3 階部分は大広間になっています。西端の棟は 2 階建てで、昔は目の前まで海が来ていたようで、こちら内部は数寄屋風です。丸久旅館は以前、海釣り客相手に船のあっせんも行っていたようで、埋め立てで海が遠くなってしまったことが残念に思われます。

この建物の特徴として気づいた点をいくつかご紹介します。まず、外観が特徴的です。身近に見ることのない木造 3 階建てです。東側・玄関側ファサード (写真①) はこの建物の性格や遊び心を象徴していると思われまふ。各階左右それぞれ、窓・壁・庇などが異なる外観となっています。数寄屋風ですが、他にない意匠を求めているように思えます。建ったころは最先端のデザインだったのかもしれない。

床の敷石 (写真③~⑥) へのこだわりは目を引くものがあります。玄関・1 階廊下・2 階廊下ともに玉石の敷き詰めになっています。3 つの棟を結ぶ 1 階廊下の床は、細かい敷石に木の飛び石があり、進んでいくと赤い欄干の太鼓橋が室内に設置してあります (写真③)。2 階に上がると床の仕上げが 2 種類に分かれています (写真④)。廊下部分には紅白と黒の三色を敷き詰めてあります (写真⑤)。階段を上ったところには、細長い玉石が敷いてあり、こだわりが感じられます (写真⑥)。

窓や欄間の造形も様々で遊び心にあふれています (写真⑦~⑩)。正面から見て特徴的な、半円をずらして重ねた窓には、十字の棧が入っていて、中から見ると繊細な印象です (写真⑧)。書院の透かし欄間は花 (写真⑨)、玉手箱 (写真⑩) などが外の光を通して浮かび上がっています。窓の棧も細く華奢な作りとなっています。

各部屋の床の間には部屋ごとに異なる銘木で床柱、床板、違い棚などが作られています。写真⑪は落とし掛けの上部のくり抜きで富士山を表しています。他にも富士山が絵で描かれていた室がありましたので、思い出があったのではと感じました。

玄関側の棟の 3 階は大広間で (写真⑫)、南側は一面開放の窓になっています。近くに高い建物がないのでとても広々としていて、別世界のようにゆったりとした時間を過ごせたと思われまふ。北側は工夫のこらされた床の間、書院などになっていますが、この建物一番の床柱は残念ながら取り外された後でした。

最後に、取り壊し直前の慌ただしいなかで建物を公開していただいた所有者様に謝意を表したいと思ひます。老舗旅館のおもてなしの心が伝わってくる対応を受けました。ありがとうございました。

歴まちびと三期生 脇田泰史



① 東景 玄関側



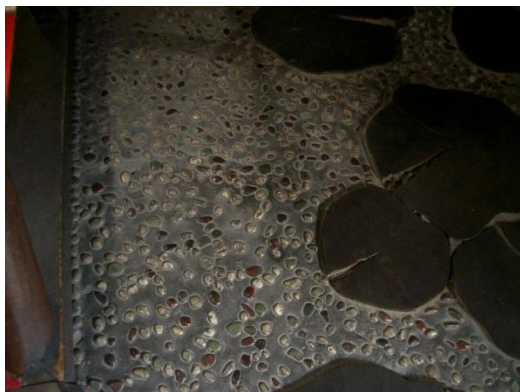
② 南景 (昭和10年築の3階建部分)



③ 通路にある赤い橋



④ 2階通路の床



⑤ 三色の敷石 (④の奥・通路部分)



⑥ 細長い敷石 (④の手前・階段部分)



⑦ 窓 菱形



⑧ 窓 半円形



⑨ 窓と透かし欄間



⑩ 窓と透かし欄間



⑪ 富士山のモチーフ



⑫ 3階大広間